

**投資のレッスン (2014年4月21日)**  
**日経平均株価 5日連続安値切り下げ型陰線 Part II**

**過去 27 回中 6 番目の上昇**

週間騰落率で見ると約 4%の上昇となりました。上出来です。過去と比較しても第 6 位の上昇率です。

順位	終了日	終了後の騰落率	
		5営業日後	22営業日後
1	2008年10月10日	8.81%	-0.46%
2	1990年8月23日	8.14%	-1.60%
3	1993年4月22日	6.78%	6.40%
4	2009年7月13日	6.65%	16.21%
5	1986年10月22日	4.33%	12.19%
6	2014年4月11日	3.98%	NA
7	2007年3月5日	3.91%	5.10%
8	2010年7月1日	3.74%	5.47%
9	2012年9月6日	3.62%	-0.97%
10	2002年9月4日	3.58%	-4.04%
11	2003年4月14日	2.80%	4.71%

ちなみに上位 10 回 (2.8%以上の上昇率) で見ると 1 か月後の上昇率でもプラスを維持できたのは 7 回、つまり 7 割となっており、意外にも途中で腰砕けになっているケースが見つかりました。しかし今回のような 4%程度の上昇と言うのは可もなく不可もなくというところで、1 か月後 (22 営業日後) の上昇率は 5~16%なっていますからもう少し上が狙えそうです。

**2014年2月5日からの戻りは最大で9.4%**

興味深いのは今回の戻りが特にその理由定まっていなところ。自律反発と言えばそれまでですが、相場などと言うものはいつの時代もそんなものです。

強いて挙げれば日銀黒田総裁が GDP ギャップについて言及し、「需給ギャップがほとんどゼロに近い」と、とんでもないことを言って市場関係者をひっくり返らせたことがその理由かもしれません。ギャップがないならもう追加の金融緩和する必要はありませんから。

しかし相場の面白いところは、追加の金融緩和があろうがなかろうが結局上がってしまうところです。今年度の相場の主役は、昨年度の外国人に替わって、個人と事業会社の可能性が高そうですから、結局のところ日銀の追加緩和など関係ないのかもしれませんが、

そんな先のこと (と言っても 6 月が予想されていますが) よりも前回の 5 日連続安値切り下げ型陰線の後の反発局面 (2 月 5 日) での戻りの最大値は 9.4%であったことだけ確認しておきましょう。